

八潮市

はちじょういせき

八條遺跡

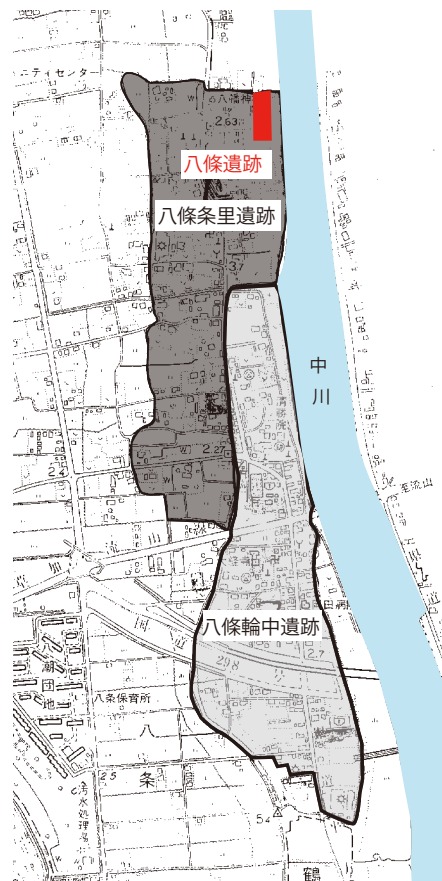
八條遺跡は、県南東部に広がる中川低地を流れる中川の自然堤防上にあります。遺跡周辺の標高は約3mです。今回、中川築堤工事に伴い、市内では初めての発掘調査が行われています。

調査では、奈良・平安時代の^{たてあな}竪穴住居跡や中・近世の^{どこう}土壌、溝跡などが発見され、多数の土器などが出土しています。

平安時代の竪穴住居跡からは、当時の役人のベルトを飾っていた^{おびがなく}帯金具（^{まるども}丸鞆・^{たひ}鉈尾）が出土しました。丸鞆と鉈尾が揃って発見されるのは珍しい例です。また、武蔵国（埼玉県内）だけでなく、^{しもうさ}下総国（千葉県）や^{しもつけ}下野国（栃木県）で作られた土器類も多数出土していることは、中川を介した古代の流通が盛んであったことを物語っています。

中世の土壌からは、短刀が出土しました。お墓に副葬されたものと考えられます。まわりには墓地が広がっていた可能性があります。

近世では、屋敷の「構堀（かまえぼり）」とみられる大きな溝跡が発見されました。遺跡の下流にある、「八條渡し」として栄えた八條の宿（しゅく）との関連も考えられます。

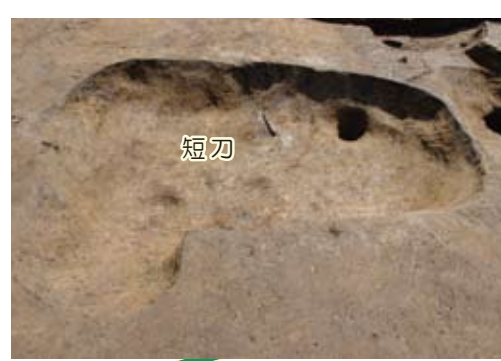




第1号住居跡

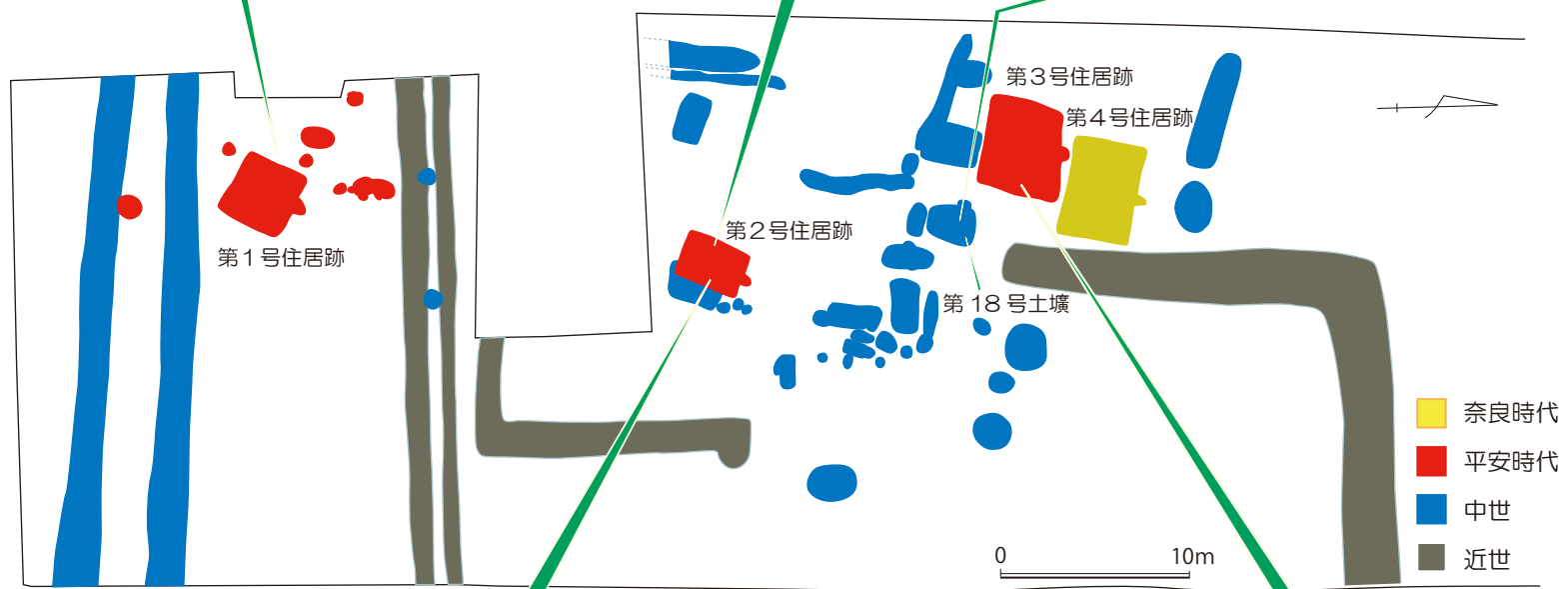


第2号住居跡



短刀

第18号土壌



表



裏

まるとも
丸鞆 (第2号住居跡出土)



だび
鉈尾 (第3号住居跡出土)



帯金具は奈良・平安時代の役人の革ベルト飾りで、身分の表示として採用されました。鉈具、丸鞆、巡方、鉈尾（下図参照）などで構成されています。奈良時代には、金属（主に銅）製の地に、黒漆を塗ったものと、金銀を貼ったものがありました。身分によって相違があり、それぞれ腰帯を締めることが決められていました。平安時代には、石製のものになります。埼玉県内では、将監塚遺跡（本庄市〔旧児玉町〕）、氷川神社東遺跡（さいたま市〔旧大宮市〕）などで出土しています。



帯金具

奈良時代の腰帯の名称（模式図であり実際の長さ配置等は不明なことが多い。）